

# 東京の映画館における楽士の概況

## 『日本映画年鑑 大正十三・四年版』の分析を通じて

齋藤 完

Overview of Musicians at Movie Theaters in Tokyo (1925)

SAITO Mitsuru

(Received September 28, 2018)

### はじめに

西洋音楽が日本に普及する過程において映画館が果たした役割は小さくない。明治30年代から昭和初期にかけての無声映画の時代、楽士と呼ばれる音楽家たちによる映画伴奏音楽や休憩演奏<sup>1</sup>が、大衆にとって身近に接することができた西洋音楽の一つであった。

しかしながら、その音楽に対して当時の音楽専門誌は好意的ではなく、わずかな例外を除いてその音楽が報じられることはなかった。「音楽とか劇とかが本当に分る人にむかって、今までの映画伴奏ぐらい馬鹿げたものはなかった(12)」とは、1929年のトーキー時代到来を受けて音楽評論家・伊庭孝が発した言葉だが、当時の文献を読むと「本当に分る人」たちが伊庭と同じ認識を共有していたことがわかる。

その一方で、海軍軍楽隊長を退役したのちに松竹キネマ音楽部長となった島田晴誉は「民衆の音楽の普及というような点では活動常設館の音楽は最も密接且つ重大な関係にあると思います(40)」と述べており、映画館での音楽に指導的な立場にある人々は、多かれ少なかれこうした意義に自覚的であった。そしてこの自覚は、軍楽に端を発するブラスバンド文化が西洋音楽普及に果たした役割を振り返るとき、正鵠を射たものであった。

本稿は西洋音楽普及の一端を担ったと考えられる映画館音楽の担い手たちの全体像を捉えようと試みるものである。分析の対象とするのは『日本映画年鑑 大正十三・四年』である。これはアサヒグラフ編輯局が編纂し、大正十四年に東京朝日新聞発行所が出版した文献で、その294～340ページに「楽士名簿」として当時の楽士の名前、生年月日、出身地、学歴、職歴、所属館、担当楽器が記載されている。

本調査は全国各映画館へ調査表を配布して楽士各自に記入を乞うたものであるが、本社より再三

の依頼にも拘らず記入されなかった向も少なくなかった為完全を期する事の出来なかったのは遺憾に堪えない次第であるが来年度に於て之が完成を期する(294)。

このようにあるものの、同書のほかに資料がない現状にあつては、貴重な参照先である。ちなみに、「来年度」に同様な調査結果が報告された形跡はなく、管見が及ぶ限りでは昭和5年に発行された『日本映画年鑑 昭和四年、五年』に楽士に関する情報が得られるのみである。しかしながら、その情報は昭和3年末の楽士のおおよその人数(約5000名)を伝えるのみにとどまっている(143)<sup>2</sup>。

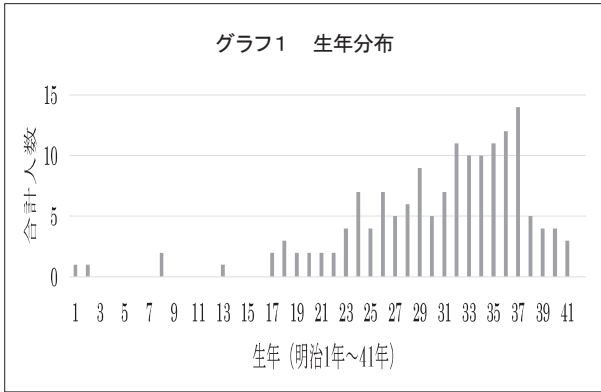
本稿では映画館で演奏する楽士の年齢構成や担当楽器や音楽歴を概観したうえで、映画館ごとの人数や楽器編成を示すことによって、無声映画時代の映画館音楽の一端を明らかにすることを試みる。対象とするのは東京の楽士である。東京に焦点を絞ったのは、日本の中心だからというだけでなく、他地域と回答数を比較すると圧倒的に多く、また必要事項に記入している例が多いので、映画館における音楽の実態がより具体的に把握できると考えたからである。

なお、年鑑では楽士はアルファベット順に掲載されているのだが、本稿ではそれを所属映画館ごとに並べ替えて、巻末に一覧を提示している(表2)。文中〔〕に記入されている丸数字は巻末の表1の映画館に付した通し番号、半角数字は表2で楽士に付した通し番号である。また、●は潰れて判読が不可能な文字を意味している。

### 楽士の年齢

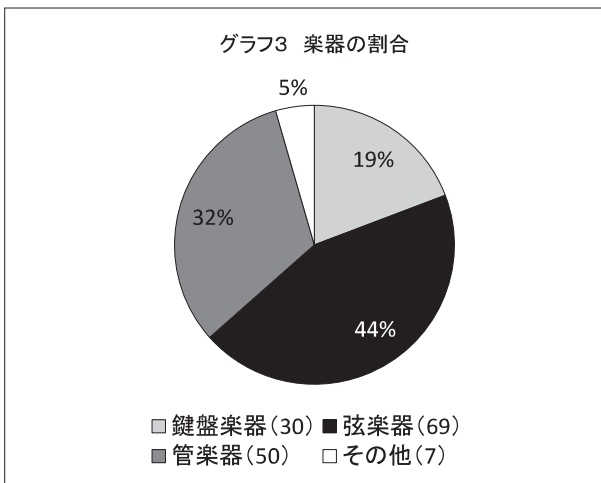
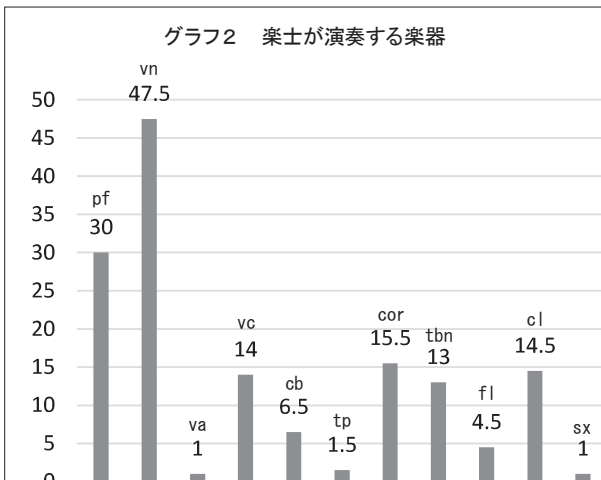
年齢の分布はグラフ1のとおり20代が最も多く94名で、全体の約6割に相当する。なかでも21歳(明治37年生)から26歳(明治32年生)に68名が集中している

のが特徴的だと言えよう。



回答を寄せた156人の楽士たちのうち、最高年齢は57歳の池田辰五郎〔012〕で明治元年生まれ、最低年齢は17歳の三人〔004、013、138〕で明治41年生まれである<sup>3</sup>。平均年齢は27.5歳であった。ちなみに他地域を見てみると、最年長が徳島県・相生館に勤務の後藤鹿太郎で安政5年生れの67歳（日本映画年鑑大正十三・四年度：328）、最年少が鹿児島県・喜美館の森通で大正2年生まれの12歳（同前：335）となっている。

出身は東京府が43名、東京府外が98名、不明が15名となっており、府外者が圧倒的に多いことがわかる。



楽士が演奏する楽器で最も多いのが、ヴァイオリンの47.5名<sup>4</sup>で、それに次ぐのがピアノの30名となっている。管楽器では15.5名のホルネット、14.5名のクラリネット、13人のトロンボーンの間である（グラフ2）。これを種類別に分けたのがグラフ3で、鍵盤楽器19%、弦楽器44%、管楽器32%、その他5%となる。なお、管楽器の割合は金管3：木管2となっている（詳細は巻末の表1参照）。

### 楽士の音楽歴

「楽士名簿」の「学歴」「職業歴」などの項目から、楽士たちの音楽歴を——断片的ではあるが——窺い知ることができる。156名のうち9名〔001-005、043、049、115、145〕は不明なので147名を対象にして、映画館以前における音楽教育／訓練を見てみると、69名が音楽学校、軍楽隊、少年音楽隊などで受けている一方で、78名が映画館で、あるいは映画館へ人材を派遣する組織で教育／訓練を受けていることがわかる（詳細は巻末の表2参照）。

音楽学校で教育を受けた者は29名。なかでも抜きん出て多いのが東洋音楽学校で、19名となっている〔010、016、038、039、045、055、057、066、083、104、106、107、109、112、126、127、128、138、139〕。同校は「官立の東京音楽学校に20年遅れて明治40年に開学した」私立の音楽学校で、一般聴衆を対象として民間での演奏機会を増やし、卒業生が音楽を職として生きる力を身につけることを目標としていた」（武石：46）。ただし、名簿には中途退学者や在学中の者も含まれており、さらには同校では夏期講習会も開かれていたのでその修了生がいる可能性もあるかもしれない。その他、東京音楽学校が5名〔013、041、065、130、136〕と校名が記されていない音楽学校が5名〔074、140、146、147、148〕。いずれも、どの程度の教育を受けたか（予科／師範科／専修科など）、あるいは卒業生しているかどうか不明な者がいる。

軍楽隊出身者は24名。内訳は陸軍15名〔024、025、030、033、051、086、088、089、090、091、093、103、108、116、137〕、海軍9名〔012、017、028、031、036、037、062、076、077〕となっている。特徴として指摘できるのが、「同隊に九か年勤務」〔024〕や「明治45年～大正13年海軍軍楽隊勤務」〔031〕のように、勤務年数（＝映画館以前の演奏期間）が比較的に長いことである。

その他、少年音楽隊出身者として三越〔053、110〕と松坂屋〔054、056〕があり、海外就航船の専属楽団で経験を積んだ者もある〔050、054、107、112、117、119〕<sup>5</sup>。それ以外には、日本少女歌劇団〔009〕、「ス

テンペンスキー氏に就く」〔035〕、「ピアノ教師宅で書生」〔067〕、神●●男音楽隊〔070〕、ナポリタンオーケストラ〔084〕、「ピアノ調律よりピアノ弾き」〔133〕、川上音二郎一座音楽部〔143〕、北海道県教員養成所卒業〔150〕など多種多様な場で音楽の教育／訓練を受けていることがわかる。

他方、映画館あるいは映画館へ人材を派遣する組織で教育／訓練を受けている78名のうち——「楽士名簿」の記載情報のみからわかる範囲内ではあるが——57名がとくに音楽教育／訓練を受けずに映画館に入っている。このうち学歴欄に「小学校卒業」、職歴に「三友館へ初めから」〔052〕とあるように、卒業後／中退後／在学中に映画館へ直行したのが37名。ほかの20名は函館税関・小学校教師〔027〕、生花・茶の湯師授〔032〕、「満鮮各地に就職」〔047〕、「絵画研究から音楽研究に転じ三友館へ」〔048〕、●盤工〔063〕、●●社員〔064〕、活動写真説明者〔073〕、機械工〔075〕、乾物商〔078〕、洋物小間物業〔079〕、美顔術師〔080〕、農業〔099、100〕、一年志願兵〔129〕、電気会社〔132〕、鉄工仕上手〔142〕、絵画修業〔144〕など他の職業を経て映画館の楽士となっている。

当時の代表的な人材育成派遣組織は、『日本の洋楽』によると、浅草を中心に活動した大日本中央音楽団である。この団体は退役軍人の山田栄次郎が中心となって大正3～4年ごろに設立された（99）。

大日本中央音楽団は、優れた楽士の養成に成功し、山田栄次郎は幹部となる門下生に対し、音楽事業の拡大のために分家制度を設けた。小川、豊田、松平、青木などは独立して、後分家として各々の職場を持ち、山田と同様に新人を養成し【中略】たのである（大森：102）。

「楽士名簿」に掲載されている楽士のうち大日本中央音楽団で育成されたのは6名〔007、029、059、060、111、121〕<sup>6</sup>、その分家の小川オーケストラが3名〔122、123、124〕となっている。大森は前掲書で大日本中央音楽団以外の団体も挙げている。チブリ音楽団はその一つで「千振楽器店を経営のかたわら職業演奏家の養成機関を設け、オーケストラを編成し、活動写真常設館と契約により派遣演奏をしている」との説明がある（103）。チブリ音楽団は5名〔061、082、083、085、086〕<sup>7</sup>である。これ以外にも本所区仲之●業平町にあった日本音楽団〔094、095、096、097〕や浅草区千束の森音楽会〔008、134、135〕も人材育成派遣組織であったと考えられる。

## 各館の楽士の人数、ならびに楽器編成

『日本映画年鑑』に回答した映画館は28館。各館の楽士が全員回答したという前提でここでの考察を進めた。

楽士の人数が2名の映画館が1館、3名が7館、4名が7館、5名が4館、6名が3館、7名が1館、9名が1館、13名が2館、14名が1館である（詳しくは巻末の表1参照）。

以上が当時の状況の反映であるとするなら、映画館の楽団の主流は、トリオやカルテットといった少数編成であり、映画館は大編成の楽団をもたない傾向にあると言える。以下、便宜的に小型（2～4人）、中型（5～7人）、大型（9人以上）と分類して、その楽器編成を見てみたい（以下、〔 〕内の丸数字は表1に対応）。

まず小型編成を見てみると、三人編成の場合、「ピアノ＋弦＋管」〔⑤⑨⑬⑲⑳〕が基本型であるようだが、「ピアノ＋2弦」〔⑩⑪〕というのもある。四人編成のパターンで一番多いのが「ピアノ＋2弦vn/vc＋管」〔③⑬⑱⑳〕であり、これは三人編成の基本型に低音弦楽器（チェロ）を加えたかたちとみなすことができる<sup>8</sup>。

中型である五人編成は「ピアノ＋2弦＋金管＋木管」〔①⑳〕を基本とし、この五人編成の型にながしかの楽器を加えることで六～七人編成になることがわかる〔②④⑦⑭〕。なお、三人→四人と増える場合には低音弦楽器が加えられる傾向を指摘したが、本データからはその四人編成「ピアノ＋2弦vn/vc＋管」を基にしてさらに五人編成が形成されることを確認することはできなかった。

大型の編成〔⑥⑧⑫⑰〕では、五人編成の「ピアノ＋2弦＋金管＋木管」を下敷きにしつつ、低音部の充実（とくにコントラバスの導入）が目立つ。またヴァイオリンの補強も顕著であり、大型編成のパターンをあえて示すのであれば「ピアノ＋多弦＋低弦＋金管＋木管」となるか。なお、楽士が演奏する楽器としてヴァイオリンが一番多い（グラフ2）のは、楽団の大型化にともなうヴァイオリンの補強にその理由があることがここからわかる。

## おわりに

以上、『日本映画年鑑』から大正末の映画館音楽の担い手に関してわかることを示したのだが、いま一度振り返りたいのが、楽器編成である。本稿では「ピアノ＋弦＋管」をトリオの基本形としたが、芝園館支配人・金指英一は「伴奏の最小単位はピアノ、ヴァイオリン、セロのトリオであろう」（10）と述べている。また、中型では「ピアノ＋2弦＋金管＋木管」と指摘したが、『映画評論』誌上では、中型編成としてピアノ、ヴァイオリ

ン2、チェロ、コントラバス、クラリネットが理想的と論じられている(260)。この両者から窺えるのは、管楽器よりも低音弦楽器が重視されている傾向だが、本稿とのズレは何に起因するのであろうか。「完全を期する事の出来なかった」と遺憾の意を顕わにする『日本映画年鑑』の限界なのか。あるいは理想と現実のギャップなのか。今後の研究で明らかにしたいと考えている。

揮者であるため四人編成とみなした。

#### 引用参考文献

- 朝日新聞社編 1930? 『日本映画年鑑. 昭和四・五年』朝日新聞社、東京。
- アサヒグラフ編輯局編 1925 『日本映画年鑑. 大正十三・四年度』東京朝日新聞発行所、東京。
- 阿部勘一ほか 2001 『ブラスバンドの社会史——軍楽隊から歌伴へ』青弓社、東京。
- 伊庭孝 1929 「楽士の失業を何と見る」『国際映画新聞』30号:11-14頁。
- 大森盛太郎 1986 『日本の洋楽1』新門出版社、東京。
- 金指英一 1930 「常設館に於ける音楽及伴奏上の諸問題」『国際映画新聞』39号:9-13頁。
- 島田晴誉 1923 「最近著しく進歩した活動常設館の聴衆」『活動画報』7巻6号:40-41頁。
- 清野順五郎 1927 「映画音楽に就いて(三)」『映画評論』2巻5号:270-273頁。
- 武石みどり 2005 「明治・大正期の東洋音楽学校——演奏に関連する記録・資料」『東京音楽大学研究紀要』29号:27-48頁。

<sup>1</sup>休憩中の音楽アトラクションのこと。

<sup>2</sup>同書には同時期の説明者(弁士)は6038名、映写技師は3001名とある。

<sup>3</sup>大正15年時における年齢。

<sup>4</sup>一人の奏者が二つの楽器を担当している場合には「0.5」人とカウントしているため、「47.5」人という表記になっている。

<sup>5</sup>054は松坂屋音楽隊、107と112は東洋音楽学校を経て、乗船している。

<sup>6</sup>加藤操[111]、小川恒一[121]が大日本中央音楽団出身である根拠は『日本の洋楽』(103)より。また三友館の楽長である青木策雄[047]が、大日本中央音楽団による育成ののちに分家して三友館楽長となった青木作次郎(同前)である可能性が考えられるが、確証がないので本稿には反映されていない。

<sup>7</sup>083は東洋音楽学校、086は陸軍軍楽隊を経て、チブリ音楽団に加入。

<sup>8</sup>③における楽士の数は5人だが、そのうちの1人が指

巻末【表1 映画館別楽器編成】<sup>3</sup>

	映画館名	数	pf	vn	vc	va	cb	tp	cor	tbn	fl	cl	sx	drs	Con	不明
①	日本橋松竹館	5	1	2						1		1				
②	深川松竹館	6	1	2	1				1			1				
③	深川辰巳劇場	5	1	1	1					1					1	
④	四の橋南座	7	2	2	1				1		1					
⑤	青山館 <sup>1</sup>	3	1	0.5					1	0.5						
⑥	神田日活館	13	1.5	5	1.5		1.5		1	1.5		1				
⑦	京橋日活館	6	1	2					1			1		1		
⑧	三友館	13	2	4	1		1		1	1	1	1		1		
⑨	本所日活館	3	1	1								1				
⑩	四谷日活館	3	1	2												
⑪	浅草大勝館	3	1	2												
⑫	浅草日本館 <sup>2</sup>	9	1.5	2.5			1	0.5			1.5	1		0.5	0.5	
⑬	浅草富貴館	3	1	1						1						
⑭	上野キネマ	6	1	1			1		1	1				1		
⑮	大久保キネマ	7	0.5	1	1				1.5	0.5		1.5	1			
⑯	大島電気館	4	1	1	1							1				
⑰	木場電気館	4	1	1					1			1				
⑱	新宿新生館	5			1		1		1	2						
⑲	新宿武蔵野館	14	2	3	2	1	1		1	2	1	1				
⑳	新富町グランド <sup>3</sup>	4	2	0.5	0.5				1							
㉑	神明町進明館	4	1	2												1
㉒	戸塚キネマ	4	1	1	1							1				
㉓	鳥越館	3	1		1							1				
㉔	日本橋キネマ	4	1	1	1			1								
㉕	豊三館	2		2												
㉖	本所相生館	3	0.5	1					1	0.5						
㉗	代々幡館	4	1	2												1
㉘	早稲田帝国館	5	1	2						1		1				
	所属館不明	4		2					2							
	合計	156	30	47.5	14	1	6.5	1.5	15.5	13	4.5	14.5	1	3.5	1.5	2

<sup>1</sup> 一人の奏者が二つの楽器を担当している場合には「0.5」人と表記している。同館では加藤晋之助〔024〕がヴァイオリン、トロンボーンを兼任しているため、それぞれの楽器の欄に「0.5」が記されている。以下、ほかの館でも同様。

<sup>2</sup> 太田忠夫〔069〕の楽器欄に「フラット」とあり、「フルート」と判断

<sup>3</sup> 楽器の略記は pf (ピアノ) vn (ヴァイオリン) vc (チェロ) va (ヴァイオラ) cb (コントラバス) tp (トランペット) cor (ホルネット) tbn (トロンボーン) fl (フルート) cl (クラリネット) sx (サクソフォン) drs (ドラムス) cond (指揮) である。なお、「フィドル」「提琴」と回答している者は vn に、「セロ」としている者は vc に、そして「バス」「ダブルベース」は cb に数えている。巻末表 2 の 065、154、155、156 の所属館が不明なため、表では所属館不明として記載。担当楽器は順に vn、cor、cor、vn である。

巻末【表2 所属館別楽士名鑑】<sup>1</sup>

	名前／所属館	生年月日／生地	学歴	職業歴	現在	所属楽団	専門楽器
001	赤萩定治 日本橋松竹館	M390101 東京都赤坂区					クラリネット
002	岩戸正次郎 日本橋松竹館	M340708 高知県					トロンボーン
003	小畑錦浪 日本橋松竹館	M200610 熊本県					ピアノその他
004	野口定治 日本橋松竹館	M410401 東京市下谷区					ヴァイオリン
005	野田金作 日本橋松竹館	M240524 静岡県沼津市					ヴァイオリン
006	加藤實 深川松竹館	M340303 東京市京橋区	中学校三年卒業			松竹キネマ株式会社管 絃楽団専属	ピアノ
007	関東勇 深川松竹館	M360519 東京市浅草区	大日本中央音楽団 卒業		深川松竹館洋楽部員	松竹キネマ株式会社専 属楽士	セロ
008	熊膳宮太郎 深川松竹館	M230528 北海道	札幌市英語学校一 年修業後森高等音 楽会出身	浅草公園電気館後、帝国 館、千代田館、キネマ倶楽 部ほか	深川松竹館楽長	松竹オーケストラ	クラリネット
009	佐々木龍三 深川松竹館	M3706● 広島県山県郡	中等学校四年中途 退学	日本少女歌劇団、広島日進 館勤務	深川区西町深川松竹 館	松竹オーケストラ	ヴァイオリン
010	高橋利雄 深川松竹館	M371022 栃木県日光町	高等小学校卒業		深川松竹館洋楽部員	松竹キネマ株式会社管 絃楽団	ホルネット
011	渡辺弘 深川西町松竹館	M370608 東京府南千住	東洋音楽学校本科 一年修業		深川松竹館洋楽部員	松竹キネマ株式会社管 絃楽団	ヴァイオリン
012	池田辰五郎 <sup>2</sup> 深川辰巳劇場	M010212 東京市芝区	慶応大学、海軍軍楽 隊、米・加州アラメ ダ音楽学校卒	横浜グランドホテル楽長、 上海のホテル楽長	辰巳劇場楽長	松竹管絃楽団	指揮者
013	萱間秀彦 深川辰巳劇場	M410811 東京市赤坂区	東京音楽専科三年 中退		深川辰巳劇場	松竹管絃楽団	ヴァイオリン
014	黒江定鷹 深川辰巳劇場	M321102 神奈川県川崎町	横浜市三留義塾		深川辰巳劇場	松竹管絃楽団	セロ
015	佐川喜一郎 深川辰巳劇場	M321101 宮城県大河原町	農林学校二年修業	福島市松竹直営楽館勤務	深川辰巳劇場	松竹管絃楽団	トロンボーン
016	藤井潜 深川辰巳劇場	M351103 東京市神田区	法政大学中退、東洋 音楽学校卒業			松竹管絃団	ピアノ
017	大宮憲雄 四の橋南座	M350707 松山市	中学卒業	海軍音楽隊出身		松竹管絃団	ホルネット
018	佐藤豊次 四の橋南座	M300202 大阪市八番町	中学校卒業	音楽師		松竹管絃団	チェロ
019	橋田實 四の橋南座	M331213 東京市神田区	中学校卒業	音楽師		松竹管絃団	ヴァイオリン
020	平井實 四の橋南座	M290809 静岡市横田町	中学校卒業	音楽師		松竹管絃団	ヴァイオリン
021	八尾五郎 四の橋南座	M200411 東京市浅草区	中学校卒業			松竹管絃団	ピアノ
022	山田計市 四の橋南座	M190920 東京市日本橋区	中学卒業			松竹管絃団	ピアノ
023	吉村馨 四の橋南座	M290104 岡山市	中学校卒業			松竹管絃団	フルート
024	加藤晋之助 青山館	M260210 千葉県舟形町	陸軍戸山学校軍楽 隊卒業	同隊に九年勤務	楽士	日活管絃楽	ヴァイオリン、 トロンボーン
025	鈴木常明 青山館	M290406 東京市赤坂区	陸軍戸山学校軍楽 生徒隊入隊	卒業後近衛師団軍楽隊に 七年四ヶ月勤務	楽士	日活管絃楽	ホルネット (チェロ修業中)
026	山田安久 青山館	M340416 京都府与謝郡	立命館中学二年退 学	楽士		日活管絃楽	ピアノ

東京の映画館における楽士の概況

027	岩城三郎 神田日活館	M331010 岩手県	中学五年時中途退学	函館税関、小学校教師	神田日活館楽士	日活管絃楽団	ピアノ
028	卯月啓五郎 神田日活館	M350105 山形県山形市	中等学校四年修業	T7～13 海軍軍楽隊に勤務		日活管絃楽団	バス
029	大塚泰三 神田日活館	M240320 東京市日本橋区	中学三年修業	大日本中央音楽団卒業	ヴァイオリン研究中	日活音楽部	ヴァイオリン
030	勝又盛奮？ 神田日活館	M261107 静岡県	乙種農学校卒業	大正 03～13 年陸軍戸山学校軍楽隊勤務	活動音楽師	日活管絃団	ダブルベース、 トロンボーン
031	熊谷新一 神田日活館	M280621 岩手県	中学三年修業	明治 45 年～大正 13 年海軍軍楽隊勤務		日活管絃楽団	トロンボーン
032	小林栄吉 神田日活館	M210215 東京市神田区	三田商業学校三年 ●●	生花茶の湯師授		日活オーケストラ団	ヴァイオリン
033	杉浦祐治 神田日活館	M231016 長野県下高井郡	陸軍戸山学校軍楽隊卒業	軍楽隊満期後歌劇活動に従事	英語、文学、音楽研究中	日活オーケストラ団	クラリネット
034	高屋薔 神田日活館	M350101 福島県相馬郡	音楽専門学校三年修業	音楽教授	提琴研究	日活オーケストラ団	ヴァイオリン
035	島海丑五郎 神田日活館	M260226 東京市下谷区	中学校卒業、ステンペンスキー氏に就く	ホテル活写？歌劇に従事	英語、音楽研究中	日活オーケストラ	ヴァイオリン
036	西山薫 神田日活館	M300521 愛媛県温泉郡	中学三年修業	大正 2～13 年海軍軍楽隊勤務	活動楽士	日活管絃楽団	コルネット
037	萩原弥助 神田日活館	M290815 長野県北久郡	中学四年就業	海軍軍楽隊勤務	活動楽士	日活管絃楽団	セロ
038	林昇 神田日活館	M370702 横浜市雲井町	尋常小学校卒業	東洋音楽学校	楽手	日活管絃団	ピアノ、セロ
039	吉井實 神田日活館	M400303 北海道旭川市	中学二年修業	農業、T13 より東洋音楽学校修業	楽士	日活オーケストラ	ヴァイオリン
040	内田常夫 京橋日活館	M130502 東京市牛込区	小学校				ドラム
041	金丸伝次郎 京橋日活館	M401030 京都市	東京音楽学校 ●● 出身		二等遊芸	日活管絃団	コルネット
042	木村京二 京橋日活館	M320106 東京市日本橋区		シネマパレス楽隊		東京カレスミニアンパレス音楽隊	フィドル
043	福田勝人 京橋日活館	M280220 山口県都濃郡	●●		楽士	山崎	クラリネット
044	藤間？三雄 京橋日活館	M361201 山口県宇部町	関西大学四年修業		三等遊芸？	日活管絃楽団	ヴァイオリン
045	山崎●一 京橋日活館	M320420 八王子市	東洋音楽学校修業		三等遊芸	日活管絃楽団	ピアノ
046	青木亀治郎 三友館	M390618 東京市本郷区	高等小学校卒業	三友館へ初めから	三友館詰	日活オーケストラ	ピアノ
047	青木策雄 三友館	M260911 東京市浅草区	中学校卒業	満、鮮各地に就職	三友館楽長	日活オーケストラ	コルネット
048	石井金次郎 三友館	M310804 東京市下谷区	小学校卒業	絵画研究から音楽研究に転じ三友館へ	三友館詰	日活オーケストラ	ドラム
049	石川順之助 三友館	M321015 東京市日本橋区	商業学校卒業	軍隊より直ちに三友館へ	三友館詰	日活オーケストラ	クラリネット
050	岡田利典 三友館	M370730 滋賀県長浜町	実習商業学校出身	北米航路サイベリヤ号音楽部	三友館詰	日活オーケストラ	ヴァイオリン
051	岡村郷吉 三友館	M280520 静岡県志太郡	高等小学校卒業	陸軍戸山学校、東洋キネマ等	三友館詰	日活オーケストラ	フルート
052	建部光興 三友館	M380315 福島市	小学校卒業	三友館へ初めから	三友館詰	日活オーケストラ	トロンボーン
053	原田五郎 三友館	M340209 東京市芝区	高等小学校卒業	三越音楽部より三友館へ	三友館	日活オーケストラ	セロ
054	船橋孝昌 三友館	M300901 名古屋市西区	中学卒業	松坂屋音楽部出身、海外航路船乗組	三友館第一ヴァイオリン	日活オーケストラ	ヴァイオリン
055	八木重太郎 三友館	M270413 岩手県稗貫郡	東洋音楽学校出身		三友館詰	日活オーケストラ	ヴァイオリン

齋藤 完

056	横井十太郎 三友館	M360310 名古屋市中区	高等小学校卒業	いとう松坂屋音楽部	三友館詰	日活オーケストラ	バス
057	吉村松太郎 三友館	M251110 東京市神田区	東洋音楽学校卒業	横須賀松竹館、浅草富士館	三友館詰	日活オーケストラ	ヴァイオリン
058	吉本幸三郎 三友館	M371003 栃木県下都賀郡	小学校卒業	三友館へ初めから就職	三友館詰	日活オーケストラ	ピアノ
059	関豊吉 本所日活館	M241020 府下北千住町	尋常高等小学校尋 常科卒業	M40 大日本中央音楽団に 入団今に至る	洋楽士	日活オーケストラ部員	ヴァイオリン
060	園田秀吉 本所日活館	M170208 広島市	神田開成中学校二 年修了	M33 大日本中央音楽団に 入団今に至る	洋楽士	日活オーケストラ部員	クラリネット
061	柳下近次郎 本所日活館	M290629 東京市下谷区	小学校尋常卒業	M45 浅草チプリ音楽団に 入団今に至る	洋楽士	日活オーケストラ	ピアノ
062	奥野●平次 四谷日活館	M270415 兵庫県明石町	中学卒業	海軍軍楽隊、造船所事務 員、小学校代用教員	音楽士	日活管絃楽団	ピアノ
063	杵淵●● 四谷日活館	M400310 新潟県村松町	商卒	●盤工	音楽士	日活管絃楽団	ヴァイオリン
064	羽島●夫 四谷日活館	M350822 群馬県	中学卒業	●●社員	音楽師	日活管絃楽団	ヴァイオリン
065	松井義夫	M341129 岡山県津山町	東京音楽学校選科 五学期修業		楽士	日活管絃楽	ヴァイオリン
066	久野保 浅草大勝館	M241122 広島市材木町	東洋音楽学校卒業	卒業以来大勝館に勤務	大勝館（楽長）		ヴァイオリン
067	安田幽二 浅草大勝館	M291225 旭川市	中学三年中途退学	T6 上京しピアノ教師宅で 書生。T8 会社員。T10 再 上京		大勝館	ピアノ
068	山崎鹿● 浅草大勝館	M360110 新潟県松崎町	尋常六年卒業	大正六年より楽士として 今日に及ぶ	楽士として大勝館勤 務	小宮	ヴァイオリン
069	太田忠夫 浅草日本館 <sup>3</sup>	M360409 愛媛県西宇和郡	尋常高等小学校卒 業	音楽		浅草日本館管絃楽団	フラット？、トラ ンペット
070	木原一男 浅草日本館	M260114 広島県	商業学校二年卒業	神●●男音楽隊	日本館音楽部		ヴァイオリン
071	河野通三 浅草日本館	M290330 静岡県駿東郡	商業二か年修業	音楽手	日本館音楽手	日本館管絃団	ベース
072	清野徳治 浅草日本館	M280224 宮城県亘理郡	●業学校卒業	音楽手	日本館楽手	日本館管絃楽団	クラリネット
073	金子誠二郎 浅草日本館	M390320 府下下尾久町	高等小学校修了	活動写真説明者	日本館音楽手		ピアノ、ドラム
074	松田耕 浅草日本館	M250416 東京市下谷区	音楽学校修了	音楽手	日本館音楽手	日本館管絃楽団	ピアノ
075	宮城清 浅草日本館	M231201 北海道函館市	高等小学校卒業	機械工	音楽手	日本館管絃楽団	ヴァイオリン
076	若本馨 浅草日本館	M230909 茨城県真壁郡	中学卒業	海軍軍楽隊	日本館楽長		ヴァイオリン、 指揮者
077	中村正雄 浅草日本館	M291108 岩手県上閉伊郡	中学三年修業	音楽（海軍軍楽手）	日本館音楽手	浅草日本館	トロンボーン
078	河野●● 浅草富貴館	M320922 茨城県土浦町	高等小学校卒業	乾物商	洋楽		トロンボーン
079	河原弥之吉 浅草富貴館	M300618 北海道小樽市	尋常高等小学校卒 業	洋物、小間物業	洋楽	富貴館洋楽部	ピアノ
080	清水秀聲？ 浅草富貴館	M320821 豊橋市旭町	尋常高等小学校卒 業	美顔術師	洋楽		ヴァイオリン
081	青木一郎 上野キネマ	M360102	中学卒業		楽手	映画？伴奏者同盟	ピアノ
082	大沢春吉 上野キネマ	M320302	商業学校卒業	会社員	楽手	チプリ楽団	ヴァイオリン
083	可部一夫 上野キネマ	M360821	日本大学在学中	東洋音楽学校卒業	楽手	チプリ楽団	ホルネット
084	高橋義人 上野キネマ	M350120	小学校卒業	新聞配達	映画伴奏者	ナポリタンオーケスト ラ	バス



東京の映画館における楽士の概況

085	永井盛市 上野キネマ	M300309	中学卒業	会社員	楽手	チブリ楽団	ドラム
086	山田常之助 上野キネマ	M021217	直友義塾出身	M19 陸軍軍楽隊入隊、陸軍仁藤楽手勤七等		チブリ楽団	トロンボーン
087	笠井一正 大久保キネマ	M330415	小学校卒業	洋楽手	洋楽手	大久保管絃団	ピアノ、 トロンボーン
088	勝間田千里 大久保キネマ	M240628	陸軍戸山学校軍楽生徒隊	鉛筆製造業	大久保キネマ洋楽手	大久保管絃楽団	チェロ、 ホルネット
089	川崎仔 大久保キネマ	M271021	陸軍戸山学校軍楽隊出身		洋楽手	大久保管絃団	セロ、 クラリネット
090	楠正治 大久保キネマ	M330204	陸軍戸山学校軍楽隊出身		洋楽手	大久保管絃団	クラリネット
091	近藤辰雄 大久保キネマ	M251229	陸軍戸山学校軍楽隊出身		洋楽手勤七等	大久保管絃団	サクソーン（サクソフォンか）
092	桜井潔 大久保キネマ	M400121	中学二年修業		洋楽手	大久保管絃団	ヴァイオリン
093	佐藤義夫 大久保キネマ	M271110	戸山学校軍楽隊		洋楽士	大久保管絃楽団	ホルネット
094	篠徳俊 大島電気館	M080724	私立折原小学校		音楽手	日本音楽団本所区仲之 ●業平町	クラリネット
095	武順一郎 大島電気館	M320212	高等小学校卒業		音楽士	日本音楽団	ヴァイオリン
096	堀田宇右衛門 大島電気館	M360714	小学校高等科卒		音楽士	日本音楽団	ピアノ
097	街沢栄治郎 大島電気館	M311125	小学校卒業		音楽士	日本音楽団	チェロ
098	水野淑雄 木場電気館	M380118	中学三年中途退学				提琴
099	本吉長信 木場電気館	M331115	高等小学校	農業			ホルネット
100	山口好夫 木場電気館	M310321	高等小学校卒業	農業			ピアノ
101	山名瀧蔵 木場電気館	M341215	尋常小学校卒業				クラリネット
102	齊藤民夫 新宿新生館	M210107	中学卒業		楽手	新生オーケストラ	ホルネット
103	佐藤●洋 新宿新生館	M180105	尋常中学校卒業	陸軍軍楽隊出身勤七等後 ●陸軍一等楽手	新生館に勤務	新生館オーケストラに 勤務	（バルブ式） トロンボーン
104	佐藤久吉 新宿新生館	M331215	東洋音楽学校本科 二年退学			新生館オーケストラ団	チェロ
105	島野佛三 新宿新生館	M340409	立教大学商学部在 学中		新生館勤務	新生館オーケストラ団	ダブルベース
106	須田忠成 新宿新生館	M361115	東洋音楽学校予科 修了	雑貨商に四年従業	現住所に居る	新生オーケストラ	トロンボーン
107	今村陸郎 新宿武蔵野館	M280314	東洋音楽学校卒業	東洋汽船音楽部、日本郵船 音楽部	新宿武蔵野館	武蔵野館音楽部	ピアノ
108	上野淳 新宿武蔵野館	M270520	陸軍戸山学校卒業	松竹キネマ株式会社音楽 部	新宿武蔵野館楽士	武蔵野管絃楽団第一部	トロンボーン
109	宇賀神満雄 新宿武蔵野館	M291218	東洋音楽学校		新宿武蔵野館	武蔵野管絃楽団第一部	ヴァイオリン
110	浮田重雄 新宿武蔵野館	M310830	高等科卒業	三越音楽部	新宿武蔵野館	武蔵野管絃楽団第一部	ヴァイオリン
111	加藤操 新宿武蔵野館	M240113	早稲田中学校就業	南満鉄道株式会社音楽部	新宿武蔵野館楽士	武蔵野管絃団第一部	クラリネット
112	貫洞喜代治 新宿武蔵野館	M340317	東洋音楽学校卒業	東洋汽船音楽部	新宿武蔵野館楽士	武蔵野管絃団第一部	ピアノ
113	熊谷栄松 新宿武蔵野館	M330418	高等科卒業	金曜館および帝国館	新宿武蔵野館	武蔵野管絃団第一部	トロンボーン

斎藤 完

114	志賀進 新宿武蔵野館	M370109 横須賀市	中学三年修業	駒込館	武蔵野館楽手	武蔵野管絃楽団第一部	ヴァイオリン
115	ミハル・グロリア・リエフ 新宿武蔵野館	18991120 露国トムスカ州	チタ市高等学校	音楽教授	武蔵野管絃楽団指揮者	武蔵野管絃楽団	チェロ
116	千葉盛人 新宿武蔵野館	M260615 岩手県東岩井郡	陸軍戸山学校卒業	キネマ倶楽部音楽部	新宿武蔵野館楽士	武蔵野管絃楽団第一部	フルート
117	西沢久男 新宿武蔵野館	M320324 長野県更級郡	中学校修業	東洋汽船サイベリア丸音楽部	新宿武蔵野館楽士	武蔵野管絃楽団第一部	チェロ
118	萩野●次 新宿武蔵野館	M330703 東京市四谷区	高等●年卒業	牛込館音楽部	武蔵野館楽士	武蔵野管絃団第一部	ヴィオラ
119	長谷川秋甫 新宿武蔵野館	M190209 仙台市南五十人町	仙台第一中学校	元東洋汽船株式会社、日本郵船株式会社楽長	武蔵野管絃団第一楽長	同	コルネット
120	吉田清太郎 新宿武蔵野館	M180714 富山県下新川郡	尋常高等小学校卒業	四谷館音楽部	新宿武蔵野館	武蔵野館音楽部	ベース
121	小川恒一 新富町グランドキネマ	M220306 長野県	専門学校卒業	音楽士	楽長	小川オーケストラ	全部、ピアノ、コルネット
122	宮下佐八 新富町グランドキネマ	M260510	中学卒業	中学教員、音楽士	楽士	小川オーケストラ	コルネット、ヴァイオリン等
123	本田正● 新富町グランドキネマ	M361230 京都市下鴨町	明倫小学校卒業	楽士	京橋区新富町グランドキネマ	小川オーケストラ	ピアノ
124	安田正夫 新富町グランドキネマ	M310305	中学卒業	音楽士	音楽部員	小川オーケストラ	ピアノ、チェロ
125	石川源一 神明町進明館	M380330 山梨県南巨摩郡	実業学校卒業	楽士		神谷インベリアル・オーケストラ	ヴァイオリン
126	石塚武 神明町進明館	M380209 山梨県	東洋音楽在学中	楽士		神谷インベリアル・オーケストラ	
127	福田満五郎 神明町進明館	M370927 山口県徳山町	東洋音楽在学中	楽士		神谷インベリアル管絃楽団	ピアノ
128	松本龍馬 神明町進明館	M380217 愛媛県西條東町	東洋音楽学校在学中	楽師	同じ	神谷インベリアル・オーケストラ	ヴァイオリン
129	小西光●	M340221 東京市日本橋区	早稲田大学商科卒業	一年志願兵	戸塚キネマ		チェロ
130	齊藤民夫 戸塚キネマ	M350608 青森県八戸町	東京音楽学校中途退学	数館の楽長	戸塚キネマ楽長		ヴァイオリン
131	佐藤六郎 榎太泊町	M360507	高等小学校卒業		戸塚キネマ		ピアノ
132	白葉呉作 東京市牛込区	M330204	開成中学三年修業	電気会社	戸塚キネマ		クラリネット
133	加納輝雄 鳥越館	M351120 兵庫県西宮町	錦城商業三年修業	ピアノ調律よりピアノ弾き	ピアノ弾き	●楽団	ピアノ
134	小林茂 鳥越館	M370203 栃木県	尋常小学校	大正10年森音楽会入会す	鳥越館へ楽士として就職す	浅草区千束1-89森音楽会	クラリネット
135	中本正隆 鳥越館	M390611 北海道夕張町	早稲田大学付属工手学校卒業	大正11~12年印刷局工員	大正13年浅草鳥越館に就職	森音楽会	ヴァイオリン
136	野川錠司 日本橋キネマ	M240619 東京市	正則英語学校、東京音楽学校			インベリアル・オーケストラ	ヴァイオリン
137	花井英吉 日本橋キネマ	M350625	陸軍戸山学校			インベリアル・オーケストラ	トランペット
138	山畑昇一 日本橋キネマ	M410528	東洋音楽学校		在学中	インベリアル・オーケストラ	チェロ
139	吉田文雄 日本橋キネマ	M360825 東京市	東洋音楽学校	在学中		インベリアル・オーケストラ	ピアノ
140	佐藤天一 豊三館	M350930 鹿児島県串木野町	中学校四年修了	会社事務	音楽学校在学	東洋ストリングオーケストラ団	ヴァイオリン
141	猿渡一枝? 豊三館	M330119 鹿児島県鹿児島市	高等小学校卒業	活動常設常備館音楽部	生駒興行部所属豊三館	東洋ストリングオーケストラ団	ヴァイオリン
142	石田芳太郎 本所相生館	M340801 秋田県仙北郡	高等科卒業	大正11年より音楽をやる、鉄工仕上手	楽士		コルネット

東京の映画館における楽士の概況

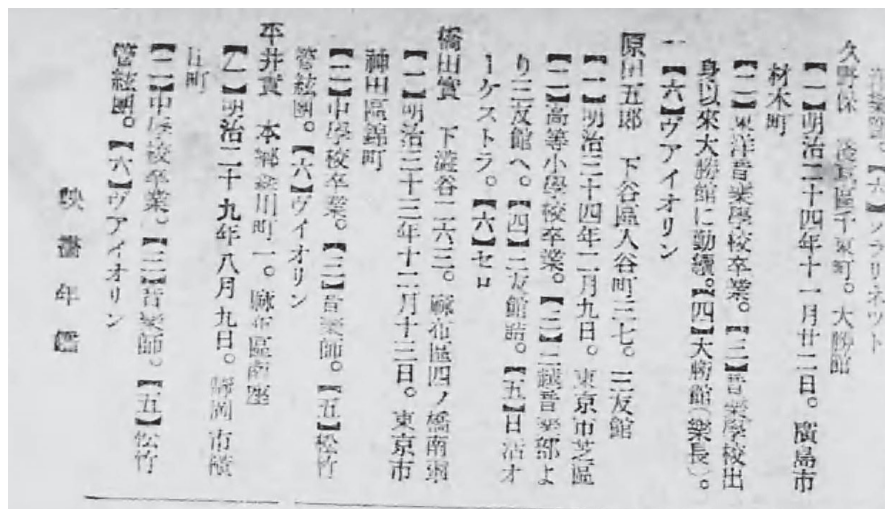
143	高橋忠藏 本所相生館	M170119 仙台市原町	中学校卒業	鉄斎師に就き南画研修、 M35-T02 川上音二郎一 座音楽部	楽士		ピアノ、 トロンボーン
144	松山精男 本所相生館	M350519 下谷区	高等二年修了	絵画修業	音楽に従事す		ヴァイオリン
145	大槻銀月 代々幡館	M180816	高等小学卒業	音楽教授	代々幡館	大槻管絃団長	
146	亀田俊明 代々幡館	M370125 東京市	高等小学校卒	音楽学校出身	代々幡館	大槻管絃団	ヴァイオリン
147	小菅絃鷹 代々幡館	M310919	高等小学校	音楽学校出●	代々幡館	大槻管絃団	ピアノ
148	柳天洋 代々幡館	M310303	音楽学校出身		代々幡館	大槻管絃楽団	ヴァイオリン
149	草山友吉 早稲田帝国館	M280814 東京市四谷区	尋常高等小学校卒業	楽士	楽士	早稲田帝国館洋楽部	ピアノ
150	砂山興一郎 早稲田帝国館	M370127 小樽市	北海道県教員養成 所卒業	楽師	楽師	早稲田帝国館洋楽部	ヴァイオリン
151	橋本免吉 早稲田帝国館	M080601 福島県倉町	戸山学校出身	楽士	楽士	早稲田帝国館	クラリネット
152	宮崎峰三 早稲田帝国館	M220417 福島県	中学校卒業	楽士	楽士	早稲田帝国館洋楽部	トロンボーン
153	若松巖 早稲田帝国館	M370323 宮城県石巻町	仙台東北学院修了	楽士	楽士	早稲田帝国館洋楽部	ヴァイオリン
154	青野正任 富●喜館	M250124 石川県金沢市	中学校卒業	洋楽	洋楽		ホルネット
155	伊藤芳春	M370925	岡崎商業学校卒業				ホルネット
156	滑川六郎 グランドキネマ	M371029 千葉県	中学程度	音楽士		グランドキネマ	ヴァイオリン

1 この表は『日本映画年鑑』でアルファベット順に並んでいる「楽士名簿」を楽士の所属館ごとに整理し直したものである。参考までに年間の書影と「楽士名簿」のレイアウトを掲載しておく

【図1 『日本映画年鑑』書影】



【図2 『日本映画年鑑』「楽士名簿」レイアウト】



2 年鑑には辰一郎とあるが、活動歴から池田辰五郎と断定した。

3 年鑑には「浅草公園日本館」「浅草新畑町日本館」の二つの表記があるが、本稿では同一館とみなし「浅草日本館」としている。なお前者は 69、73、75、76、77 で、後者は 70、71、72、74。